

1981年出土の木簡



(小松)

依里物忌固物忌天罡急々如律令  
ヒノキ材。下部が欠損している。

漆町遺跡は、小松市街地の東方約一km、標高三mばかりの微高地  
上に営まれた弥生時代後期から中・近世にかけての複合遺跡であ  
る。一九七九年より県営  
公害防除特別土地改良事  
業の実施に伴ない石川県  
立埋蔵文化財センターと  
小松市教育委員会が調査

- 1 所在地 石川県小松市漆町  
2 調査期間 一九八一年(昭56)四月～八月  
3 発掘機関 小松市教育委員会  
4 調査担当者 小村 茂・宮下幸夫・久生秀樹  
5 遺跡の種類 集落跡  
6 遺跡の年代 古墳時代前期・平安時代中・後期  
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要  
漆町遺跡は、小松市街地の東方約一km、標高三mばかりの微高地  
上に営まれた弥生時代後期から中・近世にかけての複合遺跡であ  
る。一九七九年より県営  
公害防除特別土地改良事  
業の実施に伴ない石川県  
立埋蔵文化財センターと  
小松市教育委員会が調査
- 8 木簡の釈文・内容  
・「依里物忌固物忌天罡急々如律令  
・「依里物忌固物忌天罡急々如律令  
ヒノキ材。下部が欠損している。
- 9 関係文献  
石川県立埋蔵文化財センター『漆町遺跡』  
(357)×32×4 061  
一九八一年  
(小村 茂)

区を定めて事業主体となり、発掘調査を実施した。

漆町(C地区)遺跡は、漆町遺跡の南辺に位置するが、調査を主線  
排水路施設範囲内に限定したため、発見された遺構の全容を知るま  
でには至らなかつた。

木簡が検出された遺構は、低湿地(ほぼ南北に伸びる河川遺構と推定  
される)の東岸より約一mの斜傾地で、先端を河川中央に向けて発  
見された。須恵器杯及び須恵器転用硯が伴出しており、平安時代後  
期に比定している。